

福祉とやま

ふれあいネットワーク (福) 富山県社会福祉協議会広報誌

2025
1月号
January

No.479



外国にルーツを持つ子どもたちを対象とした学習支援(アレッセ高岡)

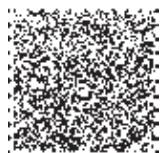
目次

CONTENTS

特集 P2~3 外国人の地域生活を支えるための取り組み

県福祉人材センターから ボランティア保険広告 しせつの損害補償	P4
知っておきたい福祉情報 社会福祉施設経営相談室から あかいはねトピックス	P5
ボランティアグループ紹介 令和6年度シニアタレント・語り部養成研修会	P6

若者のNPOチャレンジを支援 地域災害対応力強化研修を開催 「意思決定支援」について考える	P7
フリートーク 富山県に令和7年度予算要望書を提出 寄付報告／編集後記	P8



スマートフォン用アプリ「Uni-Voice」
または「Uni-Voice Blind」を使えば
情報を音声で読み上げると同時に、テキストで表示されます。



この広報誌は共同募金の助成を受けています。

外国人の地域生活を支えるための取り組み

近年、富山県に在住する外国人の数が増加しており、地域生活等で困りごとを抱えた外国人も多くいます。多様な地域課題を受け止め、解決することが求められる中で、外国人と地域でもっと過ごすためにはどのようなことができるのでしょうか。

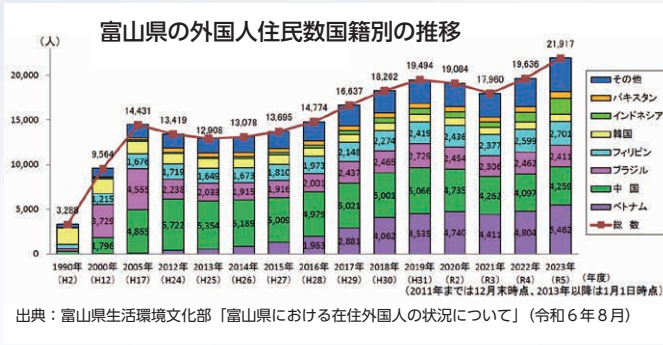
今回の特集では、外国人の地域生活を支えるための取り組みを紹介し、多文化共生について考えます。

富山県で暮らす外国人

外国人住民数は2年連続で過去最多

県内における外国人住民数は、リーマンショックが発生した平成20年度をピークに減少傾向にありましたが、平成26年度から再び増加し、令和5年度は過去最多の2万人を超えとなりました。県の総人口に占める外国人住民数の割合は、同年度で2.15%です。

国籍別にみると、平成2年度以降、中国・ブラジル国籍者の増加が顕著でしたが、令和5年度はインドネシア(前年度比741人増)、ベトナム(前年度比658人増)の両国籍者がとくに増えています。



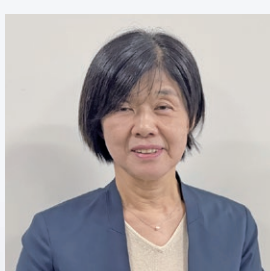
とやま国際センターは、富山県の国際交流を推進するため昭和59年に設立され、昨年40周年を迎えました。設立以来、行政や関係機関・民間交流団体などと連携しながら、国際交流・協力事業などに取り組んできました。

一方で、近年は県内に暮らす外国人の方々が増え、国籍や在留資格も多様化していることから、取り組みの重点が多文化共生の分野に移ってきています。令和元年にはそれまでの相談体制を拡充し、「富山県外国人ワンストップ相談センター」を開設しました。



公益財団法人とやま国際センター 専務理事 河内 誠さん

外国人住民のための生活相談とやま国際センターの取り組み

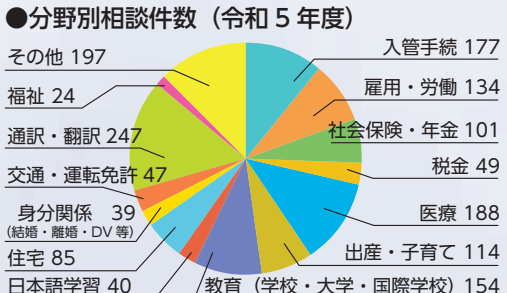


富山県外国人ワンストップ相談センター 相談コーディネーター 清水 文代さん

相談窓口「富山県外国人ワンストップ相談センター」では、県内で暮らす外国人の日常生活等に関する困りごとに対応して対応しています。相談料は無料。対応言語は日本語・英語・中国語・ポルトガル語・ベトナム語・韓国語・ロシア語・テルグ語で、その他の言語はタブレット等を使って対応しています。

令和5年度の相談件数は1,651件でした。内容は多岐に渡りますが、分野別の相談件数を見ると、多い順に「通訳・翻訳」「医療」「入管手続」「教育」「雇用・労働」となっています。

富山県外国人ワンストップ相談センターの相談状況について

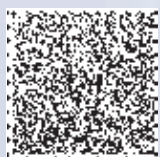


相談内容の例

- 在留資格・ビザについて知りたい
- 職場の人間関係について相談したい
- 妊娠・出産・子育てについて相談したい
- 日本語を勉強したいけれど、教室はある?
- 医療保険・年金について相談したい

相談件数 (年度別)

年度	相談件数 (単位: 件)
令和元年度(初年度)	737
令和2年度	1,429
令和3年度	1,338
令和4年度	1,704
令和5年度	1,651





相談はセンターの窓口または電話で受け付ける

私たちは言わば「つなぎ役」。あらゆる相談に一元的に対応するためには、各市町村窓口や専門機関とくに社協、入管、ハローワーク、法テラス、女性相談支援センター等)との連携が欠かせません。各機関とのつながりを強化し、対応力を向上すべく、連携研修会なども開催しています。

多文化共生の地域づくりのために

河内さん 多文化共生を考えると、日本人が外国人を支援するという視点になりがちです。一方で、昨年発生した震災・豪雨の被災地で継続的に支援活動を行なっている県内在住の外国人がいると知り、頭が下がる思いになりました。このように、同じ地域で暮らす人間同士支え合っているということ、一人ひとりが認識することが大切だと思います。

清水さん 外国人に日本での生活に慣れてもらうことはもちろん大事ですが、同時に日本人の意識も変えていく必要があると思います。その一助になればとの思いで、私たちは出前授業や研修会などにも協力しています。令和4年には小学校で「外国人が困っていること」をテーマに授業を行いました。これからも外国人

外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援



NPO法人アレッセ高岡 理事長 青木 由香さん

アレッセ高岡の取り組みについて

「アレッセ高岡」では、言語的・文化的に多様な青少年 (Culturally Linguistically Diverse 青少年) が進学等によって自己実現を果たし、日本とルーツの国の架け橋や地域の未来を切り拓く一員として活躍する人材となるよう、平成22年から学習支援を行っています。活動を始めた当時、外国にルーツを持つ子どもたちは当然のように高校進学をしない

に対するサポートと、日本人に対する啓発・普及活動の両輪で、多文化共生を進める役割を担ってまいります。

○問い合わせ先
 (公財)やま国際センター
 富山市牛島新町5-5
 インテックビル4階
 TEL 076-444-2500

という状況がありました。要因は言葉の壁やそれによる成績不振、人間関係、経済面などさまざまです。そうした進学を諦めざるを得ない状況を変えたいとの思いで、子どもたちをサポートする活動を続けてきました。現在は学習支援、教育関連情報支援・市民性教育の3つの柱で事業を進めています。

●学習支援事業

対面学習は主に中高生が対象で、ブラジル、フィリピン、中国、ボリビア等にルーツを持つ青少年26名が在籍しています(令和6年12月時点)。オンライン学習はコロナ禍にスタートしましたが、外国人散住地域である富山県においては地域課題を解決する手段になり得ると思ひ、現在も継続しています。



元教師などの支援者が親身に指導する

●市民性教育事業

学習支援を続けるなかで、多様な言語・文化を持つ子どもたちを一方的に日本語・日本文化の基準で評価し「適応」させようとすることに違和感を持つようになりました。そこで、近年力を入れているのが「市民性教育」です。違いを超えてみんなが地域を作っていくという意識や力を育むため、日本人も外国人もすべての県民を対象にセミナーなどを開催しています。

学ぶ・働く選択肢を広げていくために

現在も富山県においては、CLD青少年には教育的選択肢がほとんどありません。そこで、令和5年より「多様な学びの選択肢創造プロジェクト」を開始しました。多様な県民(日本人を含む)の学びのニーズを明らかにし、必要かつ可能な選

択肢を考え、さらにそれを実現するべく県に対して提言を行うというものです。調査はCLD青少年が中心に行いました。その結果からわかったのは、学びに関する課題やニーズは、外国人も日本人も基本的に共通だということです。違いばかりが取り沙汰されますが、まずは共通項に着目して教育システムを整えていくべきである、というのが本プロジェクトの提言における方向性です。教育以外の分野でも「外国人のため」の特別なことをするのはなく、「私たちのため」として自分ごとで考えることが大切だと思います。

今後は、CLD青少年が興味関心や適性に合った仕事に就くための支援など、教育の先の長い人生を支える取り組みにもアプローチしていきたいです。



「多様な学びの選択肢創造プロジェクト」の調査結果、提言は、アレッセ高岡のホームページに掲載されています。

○問い合わせ先

NPO法人アレッセ高岡
 高岡市守山町35
 ニッセビル402

TEL 080-8885-6823



県福祉人材

センターから

参加者募集!



24名の介護の中堅職員「がんばりすと」が表彰されました!

11月4日(月・振休)にファボーレ(富山市)で開催された「介護の日フェスティバル」において、第11回「がんばる介護職員応援事業」表彰式が行われ、富山県福祉人材確保対策・介護現場革新会議の宮田伸朗会長から表彰状が授与されました。

この表彰は介護福祉士の資格を取得し、福祉・介護の現場において、中堅介護職員として、新任職員等への助言・相談や職場のチームワークづくりに積極的に取り組むとともに、一定の研修を修了され、技術等の向上にも努めている方を表彰することにより、介護のやりがいや魅力を発信することを目的に実施しています。

表彰された24名の「がんばりすと」は、当センターウェブサイトで紹介しています。ぜひご覧ください。



宮田会長と「がんばりすと」の皆様

介護の中堅職員ががんばりすと 検索

はじめての福祉の仕事サロンを開催します!

福祉の仕事についての基本的な内容や現場の状況などについて、キャリア支援専門員がていねいにお答えします。

- 対象：福祉・介護分野に興味関心のある求職者の方
- 日時：1月23日(木) 13:30~16:00
3月27日(木) 13:30~16:00
- 会場：サンシップとやま
- 定員：10名(先着順)
※事前に県福祉人材センターまでご連絡ください。

福祉の現場を目指すあなたを応援します! **参加希望** 県社協 **お問い合わせ先**

県内ハローワークにて出張相談をおこなっています!

県内6か所のハローワークで、「福祉・介護のお仕事相談コーナー」を開設しています。キャリア支援専門員が、就職活動のアドバイスや、求職者にふさわしい職場の開拓と事業所への助言を行うことにより、円滑な就労・定着を支援します。

<相談コーナー開設日>

高岡	ハローワーク高岡 毎月 第4火曜日	小矢部	ハローワーク砺波 小矢部出張所 毎月 第3木曜日
魚津	ハローワーク魚津 毎月 第1・第3水曜日	滑川	ハローワーク滑川 毎月 第3火曜日
砺波	ハローワーク砺波 毎月 第2・第4金曜日	氷見	ハローワーク氷見 毎月 第1木曜日

県福祉人材センター 県保育士・保育所支援センター 076-432-6156 **【開所日】**月曜日~金曜日 (土・日・祝日および年末年始を除く) **【受付時間】**8:30~12:00 / 13:00~17:00

令和6年度 社会福祉施設 総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険 検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設などに

スケールメリットを活かした割安な保険料で充実補償をご提供します!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン 1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

① 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額			
	基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)	
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

保険期間1年

▶ 年額保険料(掛金)		
	定員	基本補償(A型)
補償本(A型)	1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
付見舞費用(B型)	基本補償(A型) 保険料	【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円

- プラン 2 施設利用者の補償
- プラン 3 職員等の補償
- プラン 4 法人役員等の補償



●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**
引受幹事(保険会社) 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(33581)4667
受付時間: 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)



(SJ23-11446より抜粋)

社会福祉施設経営相談室から

「資金収支計算書」と「貸借対照表」の整合性確認

専門経営相談員 中村 厚（公認会計士・税理士）

資金収支計算書と貸借対照表の整合性を確認する場合には、「支払資金」概念がポイントとなります。

社会福祉法人会計では、原則として「支払資金」「流動資産」「流動負債」です。ただし、厳密にいうと、「1年基準に

より固定資産又は固定負債から振替えられた流動資産・流動負債、引当金及び棚卸資産(貯蔵品を除く。)を除く。ものとして示されています。

例示すると次の通りです。

法人単位 貸借対照表

資産の部			負債の部		
勘定科目	当年度末	前年度末	勘定科目	当年度末	前年度末
流動資産	[ア] 3,000	[カ] 2,800	流動負債	[ウ] 1,600	[ク] 1,500
棚卸資産 (貯蔵品除く)	[イ ₁] 100	[キ ₁] 120	1年以内返済予定 設備資金借入金	[エ ₁] 220	[ケ ₁] 230
1年以内回収予定 長期貸付金	[イ ₂] 130	[キ ₂] 200	1年以内返済予定 リース債務	[エ ₂] 150	[ケ ₁] 160
徴収不能引当金	[イ ₃] △30	[キ ₃] △20	賞与引当金	[エ ₃] 130	[ケ ₁] 210

法人単位 資金収支計算書

勘定科目	予算	決算
当期資金収支差額合計		100
前期末支払資金残高		[コ] 1,600
当期末支払資金残高		[オ] 1,700

次の等式が成り立つことを確認します。

$$[オ] = ([ア] - [イ] - [ウ] - [エ])$$

$$[コ] = ([カ] - [キ] - [ク] - [ケ])$$

$$[イ] = [イ_1] + [イ_2] + [イ_3] = 100 + 130 - 30 = 200$$

$$[エ] = [エ_1] + [エ_2] + [エ_3] = 220 + 150 + 130 = 500$$

$$[オ] = ([ア] - [イ] - [ウ] - [エ]) = (3,000 - 200) - (1,600 - 500) = 2,800 - 1,100 = 1,700$$

$$[キ] = [キ_1] + [キ_2] + [キ_3] = 120 + 200 - 20 = 300$$

$$[ケ] = [ケ_1] + [ケ_2] + [ケ_3] = 230 + 160 + 210 = 600$$

$$[コ] = ([カ] - [キ] - [ク] - [ケ]) = (2,800 - 300) - (1,500 - 600) = 2,500 - 900 = 1,600$$

(整合性を確認すべき計算書類の範囲)

上記は「法人単位」の計算書類について説明していますが、事業区分別(社会福祉事業、公益事業、収益事業)や拠点別の計算書類についても同様に整合性の確認をする必要があります。

あかいはね

トピックス

第78回赤い羽根共同募金運動について

第78回となる赤い羽根共同募金運動が「じぶんの町を良くするしくみ」をメインテーマに、今年も10月1日から展開されました。

(11月29日現在集計)

63,570,708円

県民の皆様方からの温かいご支援を賜り、関係者一同深く感謝いたしております。

お寄せいただきました募金は、令和7年度に県内の福祉施設や福祉関係団体、NPO、ボランティアグループが行う地域福祉活動等に助成し、高齢者、障害者、子どもたちなどを支援する活動に役立てられます。また、近年頻発している災害時には、「災害ボランティアセンター」の設置や運営など被災地支援にも使われます。

また、12月1日から25日まで実施された「NHK歳末たすけあい」の寄付金については、県内の高齢者・障害者・児童福祉関係施設等の年末年始のふれあい事業や、高齢・障害者施設の環境整備、地域福祉課題を解決するための備品整備等に助成されます。

県内の社会福祉事業が一層推進するよう役立ててまいります。

テーマ型募金がはじまります

緊急的に解決すべき特定の地域課題やそのための活動を共同募金の募金テーマとして設け、地域課題や社会課題解決に取り組み「テーマ型募金」を、県内では左記のとおり1月1日から3月31日まで実施します。皆様のご支援をよりしくお願いいたします。

●地域食堂の起ち上げ支援募金

滑川市共同募金委員会
Tel 076-475-7000

●あったか雪募金(豪雪地における独居高齢者等の除雪支援)

黒部市共同募金委員会
Tel 0765-54-1082

●地域食堂支援募金

立山町共同募金委員会
Tel 076-463-3356

PayPayによる募金ができるようになりました

インターネットを通じた募金において、これまでのクレジットカード決済、コンビニ決済、携帯電話のキャリア決済に加え、10月1日からPayPayでの決済が選択できるようになりました。

また、従来よりも簡便にご寄付いただけるよう、ネット募金「PayPay」においては匿名での寄付を導入しています。

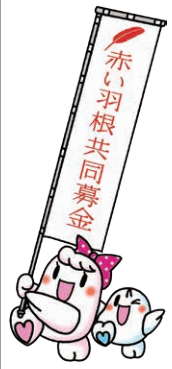
○問い合わせ先

県共同募金会

Tel 076-431-9800

ウェブサイト

www.akaihane-toyama.or.jp



ボランティア
グループ紹介

レクリエーションを通して
高齢者とともに笑顔の花を咲かせる

きらきらシスターズ(舟橋村)

舟橋村を拠点に、高齢者レクリエーション活動を行っている「きらきらシスターズ」。令和5年1月から、村在住の女性5名で活動しています。



代表 竹島 弘子さん

代表の竹島さんは、子どもたちに絵本の読み聞かせや紙芝居をする図書館ボランティア「アイソップの会」にも所属。約2年前に実施したクリスマス会で、子どもたちと保護者にハンドベルや手品、寸劇を披露すると好評を得ました。その後、メンバーの一人の提案により、竹島さんのお母さんが入居するグループホームで高齢者向けに公演することになりました。それからとんとん拍子に依頼が舞い込み、令和5年4月、正式に「きらきらシスターズ」と命名。これまでに村内外の

オレンジカフェや地域のサロン、スマイル広場、グループホームなどで公演をしています。

公演前にはメンバーが何度も集まり、練習やリハーサルを行います。衣装や手作りの小道具などもメンバーが知恵を出し合い、それぞれの得意分野で力を発揮。竹島さんは「ボランティア活動の楽しさをみんなで見たい」と話します。



ハンドベル、手遊び、手品、寸劇など多彩なプログラムを披露する



公演では30〜1時間程度のプログラムを披露。高齢者の笑顔と感謝の言葉が、何よりの喜びにつながっています。

また、活動を進めるなかで村社協から声がかかり、メンバー全員が研修を受け、認知症サポーターになりました。「認知症の方をサポートするという意識も芽生え、より積極的に活動できるようになった」と竹島さん。これからも活動を通して高齢者に笑顔届け、一緒に「きらきら」の笑顔の花を咲かせていきます。



楽しいレクリエーションで参加者も自然と笑顔になる

○問い合わせ先

舟橋村ボランティアセンター
TEL 076-464-1847

令和6年度 シニアタレント・語り部 養成研修会

シニアタレント・語り部に登録しませんか

参加者募集のお知らせ

●参加対象：計80名程度

- シニアタレント・語り部の登録を希望される方 30名程度
(概ね60歳以上の方で、長年にわたって培った知識・能力を地域社会で活用し、活動する意欲のある方、活動が期待される方、模範的な活動を行っている方)
- シニアタレント・語り部バンク登録者50名程度
(既登録者の皆様には直接ご案内を送付します)

- 内 容：[講義①] 演題「レクリエーションの目的と活動について」
NPO法人富山県レクリエーション協会 事務局次長 大橋 和子 氏
[講義②] 演題「気持ちを楽しめる認知行動療法」
NPO法人りばてい-One 代表 坂本 美奈子 氏(臨床心理士)

●日 時：令和7年2月26日(水) 13:00～16:00(予定)

●会 場：富山県教育文化会館 1階 集会室

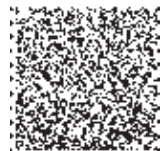
●参加者募集締切：令和7年1月24日(金) ●参加費：無料



申込方法

郵便ハガキ・FAXに、①郵便番号、②住所、③氏名、④年齢、⑤電話番号をご記入のうえ、当センター「シニアタレント・語り部養成研修会係」までお送りください。締め切り後にご案内を送付します。

○問い合わせ先 県社協 県いきいき長寿センター TEL 076-432-6010 FAX 076-432-6009



若者のNPOチャレンジを支援

10月11日～11月27日に「NPOチャレンジプロジェクト」を実施しました。本プロジェクトの対象は大学生で、NPOについて学び体験することを通して、若者のNPOへの参加促進および社会貢献活動への意識向上を図ることを目的としています。今年度は5人の大学生が参加しました。

DAY1「事前講義」では、富山福祉短期大学の中村尚紀講師、NPO法人haleaの福原渉太代表から、NPOの基本や活動をするうえで大切にしていることについてお話いただきました。

DAY2「活動体験」では、県内でまちづくりや就労支援、子どもの居場所づくりなどを行っているNPO6団体でそれぞれ活動を体験しました。

DAY3「活動報告会」では、トークグラフィッカー®の山口翔太氏とグラフィックレコーディングを用いた振り返りを行い、それぞれの活動先で学んだことやこれからのようにNPOやボランティア活動に関わっていききたいかという想いについて共有しました。

学生からは「外からでは見えてこないNPOの内側を体験しながら学ぶことができてよかった」「NPOの方や他の学生と交流したことで視野が広がった」という声がありました。



和気あいあいとした雰囲気できらびや想いを共有

トークグラフィッカー®山口氏(左)、参加学生4人(中央)、富山福祉短期大学中村講師(右)

問い合わせ先
 県社協 県ボランティアセンター
 TEL 076-43216123

地域災害対応力強化研修を開催

県福祉カレッジでは、10月23日、高志会館において、福祉・医療・行政等の専門職を対象に、災害時のソーシャルワーク支援について学ぶことを目的に、同研修を開催しました。(88名参加)

研修では「能登半島地震に学ぶ」災害時におけるソーシャルワーク支援のあり方を考える「をテーマにシンポジウムを行い、5名の方にシンポジストとして登壇いただき、各々の分野での活動報告をしていただきました。

富山市民生委員児童委員協議会の山村敏博会長からは、地震後、富山市の民生委員児童委員が見守りをしている住民を対象に行ったアンケート調査結果について報告いただきました。(福)氷見市社会福祉協議会の山崎伸行事務局長からは、ボランティアニーズのマッチングを行うだけでなく、支え合いを重視した生活支援に対応する氷見市災害ボランティア・支えあいセンターの取組みについて、(福)戸出福祉会の野村幸伸統括

施設長からは、施設として地域で果たすべき役割と備え、DWA T活動について報告いただきました。(公社)日本社会福祉士会の岡本達也副会長からは、社会福祉士の被災地支援活動、(公社)日本医療ソーシャルワーカー協会の福井康江珠洲市災害支援現地責任者からは珠洲市における被災者支援の現状と直面する課題について報告いただきました。

その後、災害時の福祉支援のあり方、災害発生に備えた平常時からの取組みの現状・成果と課題、今後必要な手立てなどについて意見交換をしました。コーディネーターを務めた県福祉カレッジの大橋謙策学長からは、地域全体の福祉支援の継続を目的とする地域BCPの必要性について話がありました。

今後県福祉カレッジでは、災害時にも対応できる持続可能な地域づくりをテーマに研修を実施します。

「意思決定支援」について考える

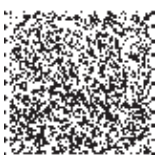
県社会福祉協議会は、11月6日、市町村社協専門員のソーシャルワーク技術の向上を目的に、「富山県日常生活自立支援事業 市町村社協専門員研修会」を開催しました。

講師に東洋大学 福祉社会デザイン学部 教授 高山直樹氏を迎え、認知機能の低下や障害などにより、判断能力が不十分な方に対する意思決定支援の考え方や、支援者に必要な視点について学びを深めました。

参加者からは、「問題」に目を向けがちだったが、本人の「生きる苦悩」に焦点を当てた支援を意識していきたい、「本人と関わる人や機関とチームを組み、連携することが大切だ」と思っていたなどの感想が寄せられました。



事例検討を通して学びを深める参加者



Free Talk フリートーク

私は幼い頃から「大きくなったら保育園の先生になりたい!」と言っていた記憶があり、卒園アルバムを見返すと、将来の夢は保育園の先生!と書いていました。その夢を叶えることができました。

希望を胸に就職しましたが、先輩のように上手く保育ができないな...という悩みが日々大きくなっていった一年目夏のことです。畑で何人かの子ども達と一緒に野菜の観察をしていると、A君が「先生、なんでトマトって緑から赤になるのかな?」と尋ねてきました。「なんでかね? A君はなんでだと思っ?」と尋ね返しました(私も何故か分からずとっさの返しでした。A君は、悩んでから「分かった!暑い日に外でいっぱい遊んだら暑い暑いって顔赤くなるねか!トマトもきつと、暑い暑いって赤くなっていると、暑い!」と目をキラキラ



社会福祉法人新川児童福祉会
 おおふせ認定こども園
 副主幹保育教諭
猪又 鮎未さん

『子ども達と過ごす
 楽しい毎日』

させて答えました。「そうかもね!」と返すと「帰ったらママとパパにも教えてあげよう」とトマトのような真つ赤な顔で嬉しそうに笑い、友達との鬼ごっこの輪に走っていました。私には走っていくA君の後ろ姿が輝いて見えたのと同時に、自分のそれまでの悩みが小さなことに感じたのを覚えていきます。そして、上手く保育することばかりにとらわれずに一人ひとりの思いや発想を大切にしていきたい!と思うきっかけになりました。これは、今も保育をする中で大切にしていることのひとつです。

日々子どもと関わる中で、たくさん成長やいろいろな発想に触れる度に保育って面白いな、楽しいなと感じます。毎日、明日は子どもと何しようかな?どんな姿に出会えるかな?とワクワクできるこの仕事が大好きです。



尾崎副会長(右)が有賀厚生部長に
 予算要望書を手交

富山県に令和7年度 予算要望書を提出

11月22日、県社会福祉協議会(県社協)は、富山県庁において、有賀厚生部長に令和7年度予算要望書を手交しました。

県社協の尾崎憲子副会長、小島伸也副会長が、市町村社会福祉協議会や社会福祉法人・施設など関係団体の現状を踏まえ、「地域共生社会」の実現に向けた地域福祉の基盤強化と包括的な支援の提供」「福祉人材の確保・定着・育成」「災害時に対応できる地域づくりの推進」などの要望内容を説明しました。



11月29日(金)、日本海ガス株式会社 常務取締役 高野光由様(左)から県社協 高畑淳一専務理事へ「第62回ガス展2024」の収益金から寄付金を贈呈

ご寄付ありがとうございます

- 寄付者一覧 令和6年10月1日から令和6年11月30日まで
- 金木 祐子 様 2,000円
- 匿名 様 20,000円
- 日本海ガス株式会社 様 100,000円

県内の社会福祉事業振興や地域福祉推進のために活用させていただきます。

編集後記

多文化共生が叫ばれて久しいなか、外国にルーツのある子どもたちの進学の実績がまだに限られていることに驚きました。同時に、本人や周囲の努力だけではなく変えることが難しい問題のようにも感じました。アレッセ高岡が行った調査・提言を一つのきっかけに、県の教育システムが、そして県民の意識が変わっていくことを期待します。

社会福祉法人 富山県社会福祉協議会は
 住民主体の地域福祉の理念に基づき、だれもが安心して暮らすことができる福祉社会の実現をめざし、県内の民生委員・児童委員、福祉施設、福祉従事者、ボランティア等で構成する、公共性と自主性をもつ民間社会福祉組織です。

本誌に関するご意見・ご感想をお聞かせください。
 ●ウェブサイト <https://www.toyama-shakyo.or.jp/>
 ●メール info@toyama-shakyo.or.jp



ハーティは富山県のボランティア活動のマスコットマークです。

